

- [4] 図のように、関数 $y = \frac{1}{2}x^2$ のグラフ上に x 座標が -1 の点 A と x 座標が 4 の点 B がある。2 点 A, B を通る直線を m とすると、直線 m の式は $y = \frac{\boxed{\text{ハ}}}{\boxed{\text{ヒ}}}x + \boxed{\text{フ}}$ である。直線 m が x 軸と交わる点を C, y 軸と交わる点を D とすると、三角形 OAB の面積は三角形 OCD の面積の $\frac{\boxed{\text{ヘ}}\boxed{\text{ホ}}}{\boxed{\text{マ}}}$ 倍である。

